

平成27年度 NTT数理データシステム学生研究奨励賞(Text Mining Studio)応募用

テキストマイニングを活用した研究授業の感想の分析
—S中高等学校の研究授業を対象として—

静岡大学教職大学院
教育学研究科修士課程1年
福元英美

研究の対象 (S中高等学校)

S中高等学校の学習指導方針:「アクティブラーニングの充実を図る」

【背景】 初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について

平成26年11月20日中央教育審議会 諮問

⇒「何を教えるか」・・・知識の質や量の改善

+

「どう教えるか」・・・学びの質や深まりを重視する

アクティブラーニングとは: 教員による一方的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的な能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブラーニングの方法である。『新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える者を育成する大学へ～(答申)』平成24年8月28日中央教育審議会



課題の発見と解決に向けて主体的・協同的に学ぶ学習(いわゆる「アクティブラーニング」)や、そのための指導の方法等を充実させる必要がある。

授業研究会の検証の目的

思考力・判断力・表現力を育むために各教科で必要な学習活動⇒広い意味での言語活動

- 1.体験から感じ取ったことを表現する
- 2.事実を正確に理解し伝達する
- 3.概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする
- 4.情報を分析・評価し、論述する
- 5.課題について、構想を立て実践し、評価・改善する
- 6.互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる

平成20年中央教育審議会答申より

平成27年6月12日(金)

実施授業

【中学3年 国語授業】【高校1年 英語授業】

授業を受けての生徒記述内容及び観察者記述内容の分析により、アクティブラーニング活動による言語活動の効果を探る

検証

検証から期待できること

アクティブラーニング活動を授業に取り入れることで、言語活動が充実し、主体的・協同的に学ぶ姿勢を身につけることができる。

分析方法:テキストマイニング(NTT数理システムText Mining Studioを使用)

対象:観察者(教師)及び学習者(生徒)

自由記述項目(中3国語)

A. 観察者(教師)への質問(自由記述、5項目)20人

1. 「本時の目標」に対して

- ①HR展テーマについて複数の立場があることが理解でき、自分の立場で意見や根拠を述べる
ことができる。
- ②自分の考えの問題点をあらかじめ反論を想定しつつ考えることができる。
- ③自分の考えと比較しながら意見を聞くことができ、多様な考えを知り、自分の考えを広げたり
深めたりすることができる。

2. パネルディスカッションに対して

3. パネルディスカッションに至る事前指導に対して

4. 授業全体に対して、よかった点、参考になった点

5. 授業全体に対して、改善点、気になった点、その他

B. 学習者(生徒)への質問(自由記述、1項目)30人

1. 授業を受けての感想

自由記述項目(高1英語)

A. 観察者(教師)への質問(自由記述)20人

1. 「本時の目標」に対して

- ①小笠原の位置、人口、島の名称、観光などの基本情報を英語で理解できる。
- ②自然な速さ(ナチュラルスピード)で本文のシャドウイングができる。
- ③間接疑問文の英作文ができ、その質問に英語で答えられる。

2. ペアワークやグループでの話し合いなどの協同学習の取り入れに対して

3. 英問英答に対して

4. 授業全体に対して、よかった点、参考になった点

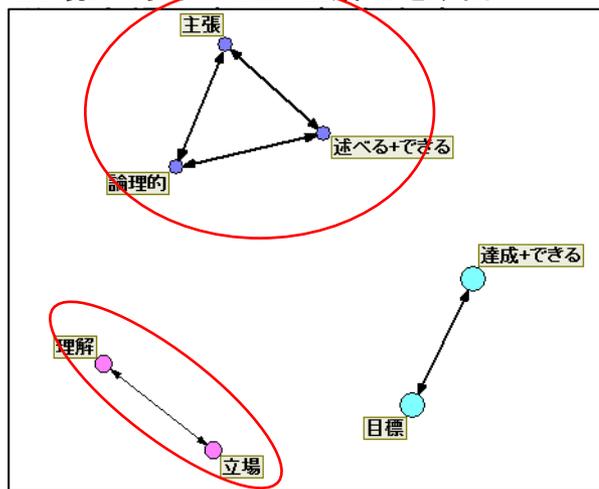
5. 授業全体に対して、改善点、気になった点、その他

B. 学習者(生徒)への質問(自由記述)27人

授業を受けての感想

中3国語 授業の分析結果

①HR展テーマについて複数の立場があることが理解でき、自

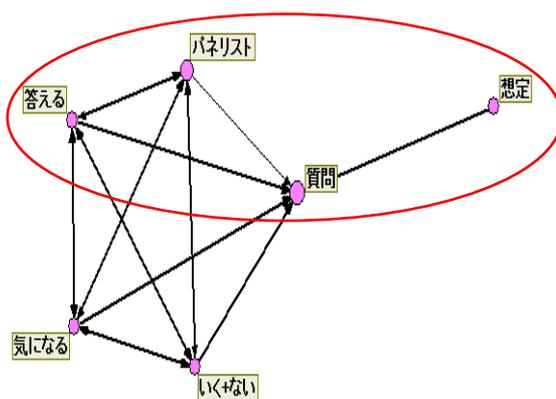


2単語の共起関係が2つ。3単語の共起関係が1つ見られた。自分の主張については、論理的に意見を述べる事ができていた。

A. 観察者(教師)への質問の分析

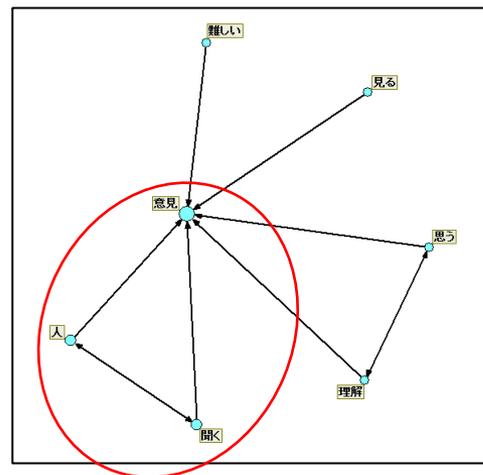
1. 本時の目標に対して

②自分の考えの問題点をあらかじめ反論を想定しつつ考えることができる。



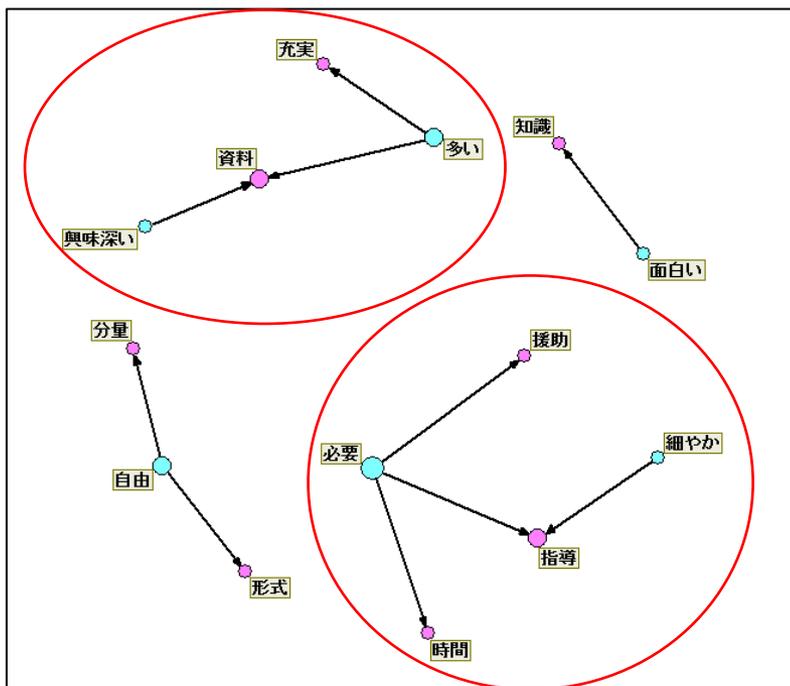
「質問」は5単語の関係が見られた。「パネリスト」は4単語からの関係が見られた。事前準備の過程の中で、生徒は予想される考えとそれに対する回答を準備していた。

③自分の考えと比較しながら意見を聞くことができ、多様な考えを知り、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。



「意見」は6単語の関係が見られた。人の意見を聞くことができていた。

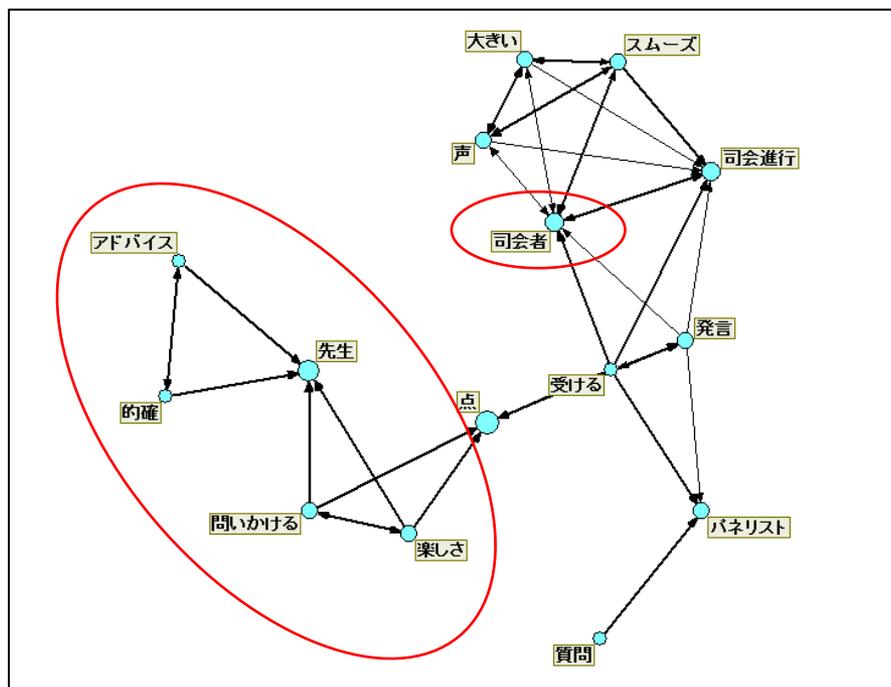
3. パネルディスカッションに至る事前指導に対する観 察者(教師)の感想(自由記述)



5単語の共起が1つ、4単語の共起が1つ見られた。

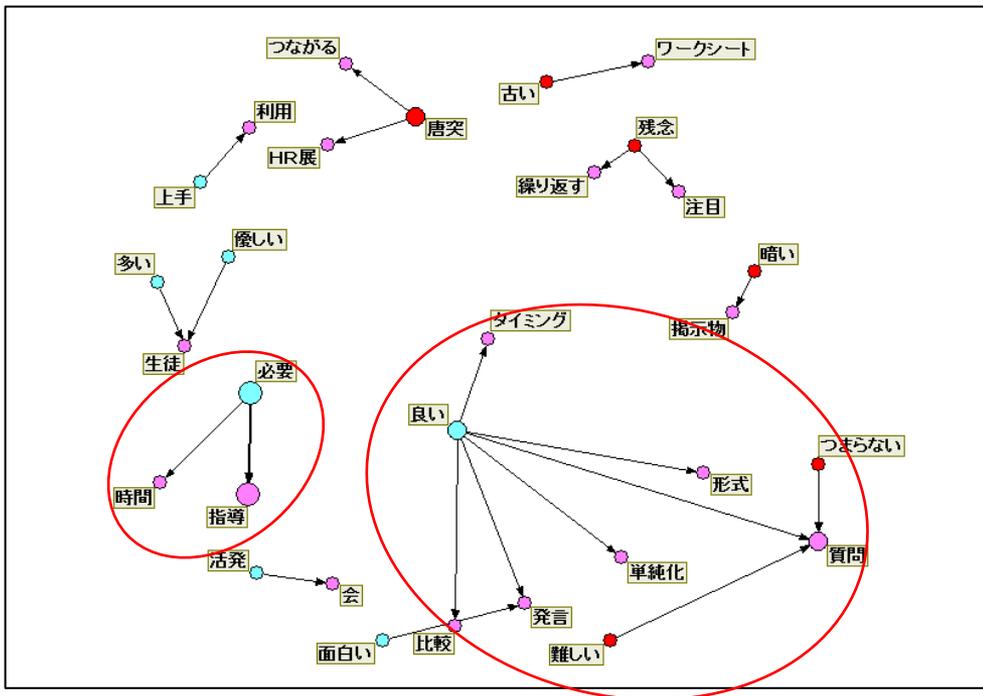
「多い」が「資料」「充実」につながり、「資料」は「興味深い」につながっている。「必要」が「援助」「指導」「時間」につながり、「指導」は「細やか」につながっている。パネルディスカッションの活動では、当日の活動を充実したものにするための事前準備として、資料を集める情報収集や細やかな指導や援助・時間の確保が大切であることが読み取れる。

4. 授業全体に対して、よかった点、参考になった点 観察者(教師)の感想(自由記述)



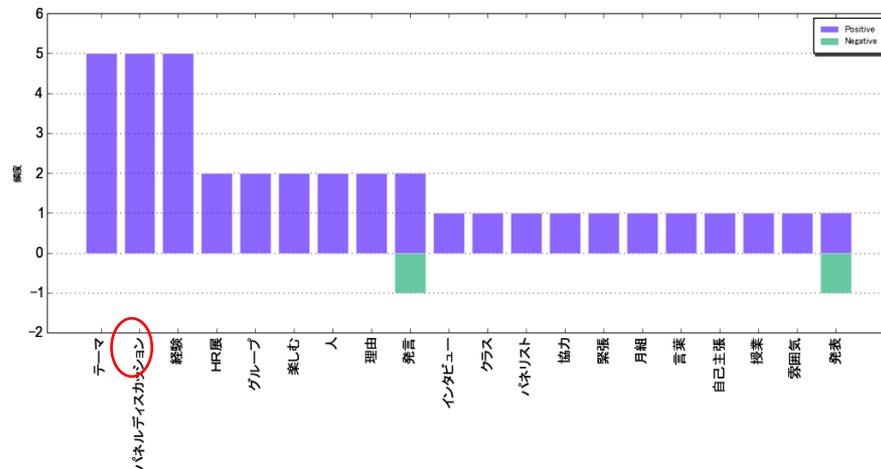
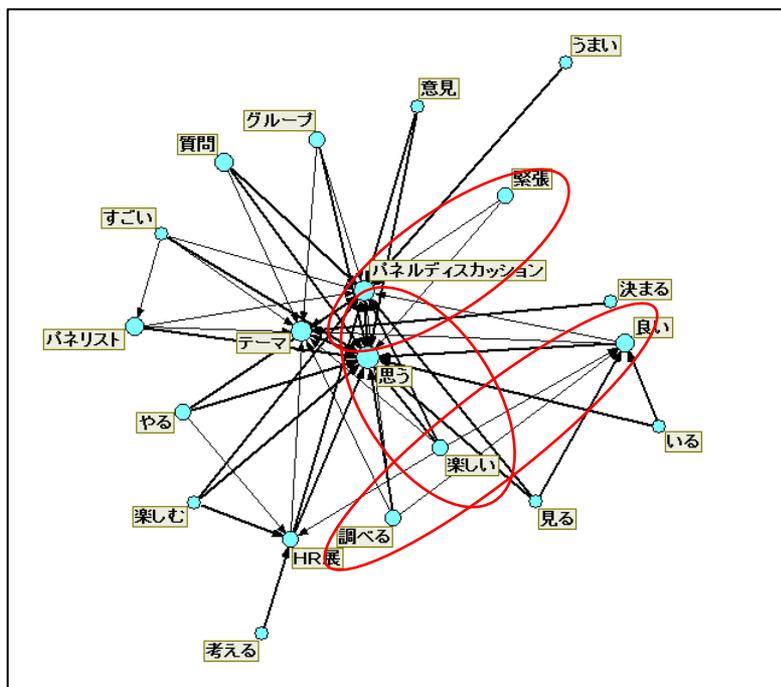
多くの単語が結びついていて、言葉のネットワークが密であった。「先生」は4単語の関連が見られた。「楽しさとは何か」と先生が問いかけたことなど、先生のアドバイスや介入する場面が的確だった。「司会者」は5単語の関連が見られた。司会者(生徒)は、パネリストの発言を受けて進行していたこと、声が大きい点がよかった点としてあげられていた。

5. 授業全体に対して、改善点、気になった点、その他 観察者(教師)の感想(自由記述)



8単語の共起が1つ、4単語の共起が2つ、3単語の共起が4つ見られた。「良い」は6単語へつながっている。「良い」から「質問」につながる一方で、「つまらない」「難しい」にもつながっている。「必要」は「指導」「時間」とつながっている。声の大きさについて指導が必要である。「自分の考えや集団の考えを発展させる」学習活動を進める(思考力・判断力・表現力を育むために必要な学習)ためには、個々が考え、グループでの話し合いをする時間の確保が大切であることから、相談の時間が短い点を改善点としてあげていた。

B. 学習者(生徒)への質問の分析 中3国語 生徒の記述内容より



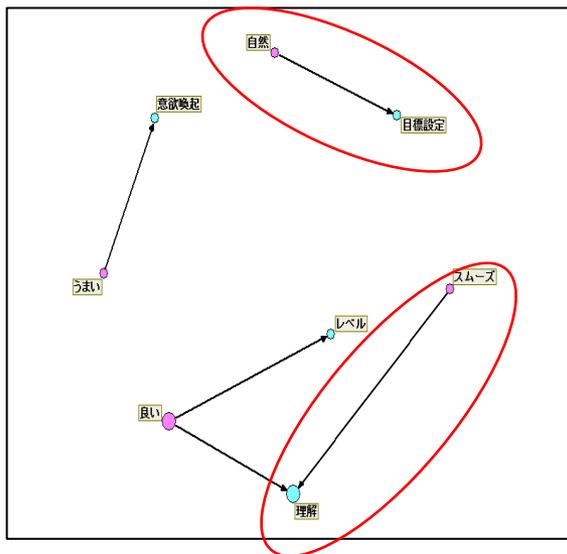
「経験」が好評語の上位にあげられている。
「パネルディスカッション」「テーマ」「思う」が多くの単語と結びついている。
「パネルディスカッション」が、「緊張」、「楽しい」につながっている。
「調べる」は「良い」につながっている。
事前準備を十分にすることで、情報を収集する、調べることの大切さを感じることができたことがわかる。

高1英語授業の分析結果

A. 観察者(教師)への質問の分析

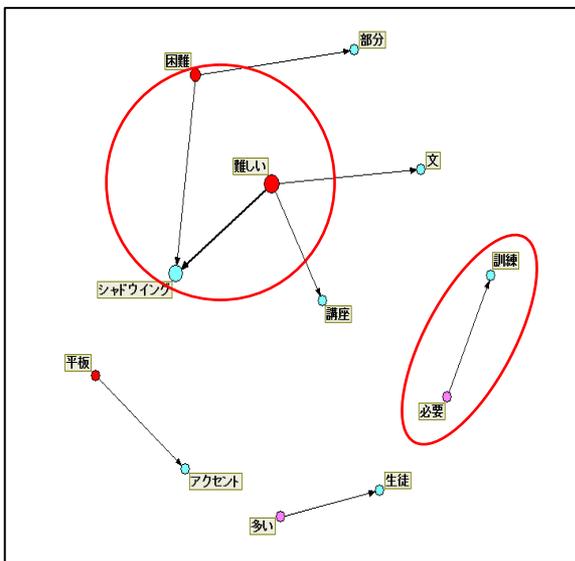
1. 「本時の目標」に対して

①小笠原の位置、人口、島の名称、観光などの基本情報を英語で理解できる。



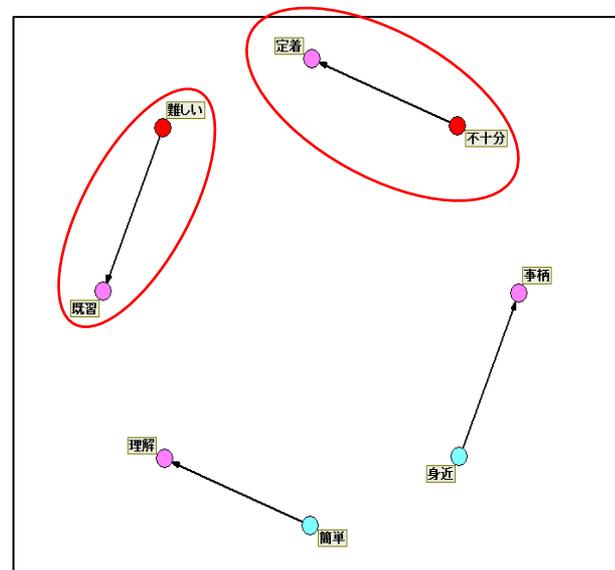
4単語の共起関係が1つ見られた。「目標設定」が「自然」で、「理解」も「スムーズ」だった。

②自然な速さ(ナチュラルスピード)で本文のシャドウイングができる。



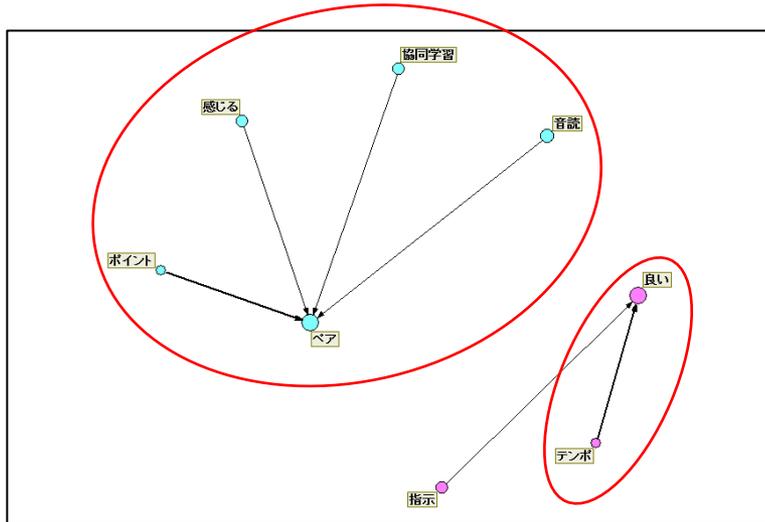
6単語の共起関係が1つ見られた。「シャドウイング」は「難しい」。「訓練」が「必要」だと感じている。

③間接疑問文の英作文ができ、その質問に英語で答えられる。



2単語の関係が4つ見られた。中学での「既習」内容だが、「難しい」。「定着」が「不十分」だと感じている。

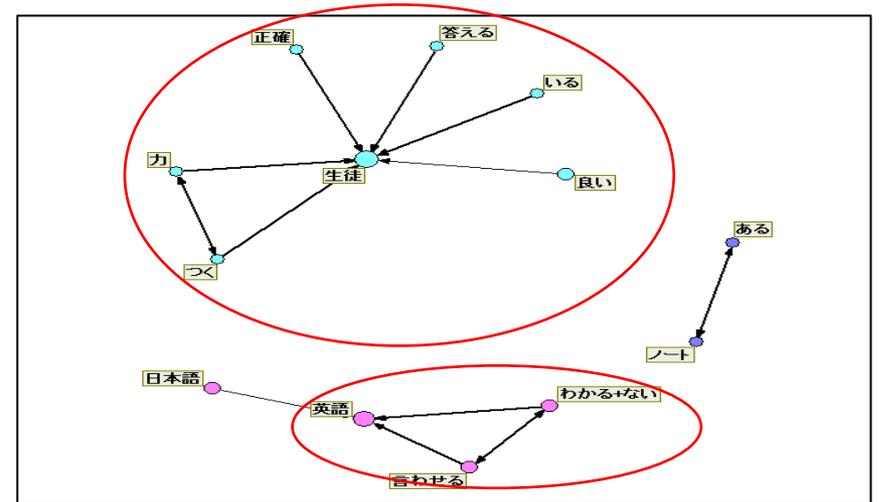
2. ペアワークやグループでの話し合いなどの協同学習の取り入れに対して観察者(教師)の感想(自由記述)



5単語の共起関係が1つ見られた。「ペア」ワークが充実していたことが「ポイント」であることが強いつながりとなっていた。「テンポ」が「良い」活動となっていた。

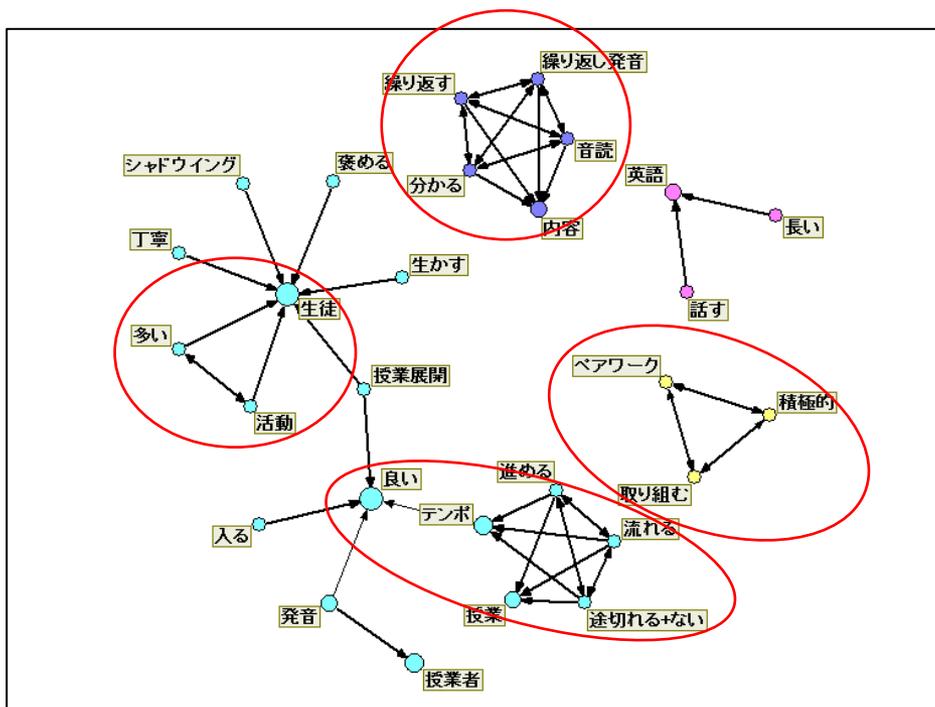
3. 英問英答に対して

観察者(教師)の感想(自由記述)



7単語の共起関係が1つ、4単語の共起関係が1つ見られた。「生徒」は「正確」に「答える」姿勢が見られた。こうした活動を繰り返すことで、生徒の聞く・考える「力」は「つく」のではないか、また、「わからない」も「英語」で言わせたらどうか、というコメントがあった。

4. 授業全体に対して、よかった点、参考になった点 観察者(教師)の感想(自由記述)



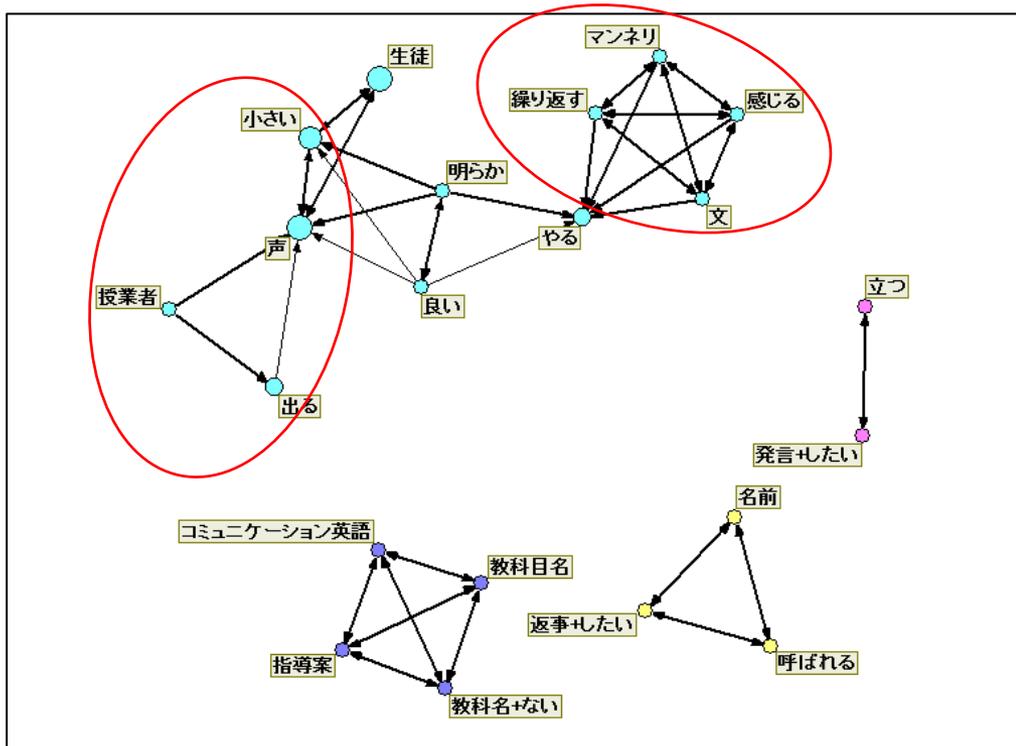
7単語の共起関係が1つ、6単語の共起関係が1つ、5単語の共起関係が2つ見られた。「音読」や「繰り返し発音」が「内容」を深めていくことにつながった。

「授業」の「流れ」が「途切れず」進められ、「テンポ」が「良い」ものとなっていた。

「生徒」の「活動」が「多い」ことで「授業展開」が「良い」ものとなった。

「ペアワーク」に対して「積極的」に「取り組む」姿勢がみられた。

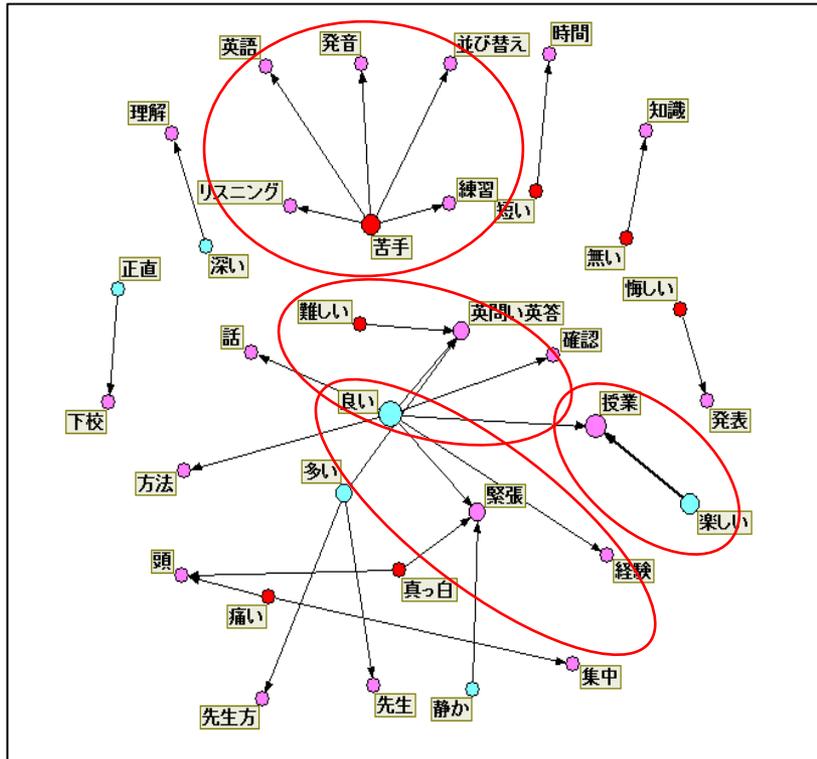
5. 授業全体に対して、改善点、気になった点 観察者(教師)の感想(自由記述)



多くの単語が結びついていて、それぞれにつながりがあるネットワークとなっている。
生徒の声が小さくなった時に、教師の声掛けのタイミングについて改善点としてあげられていた。
同じ文を「繰り返す」読むこと、「マンネリ」に「感じる」ことにつながっていた。メリハリを出させるために声の大きさに変化をつけることなどが提案されていた。

B. 学習者(生徒)への質問の分析 高1英語

生徒:授業を受けての感想



8単語の共起関係が1つ、5単語の共起関係が一つ見られた。

「授業」が「楽しい」「良い」とつながっている。「良い」が「緊張」、「経験」とつながっている。英問英答は難しいと感じる一方で、良いともつながりがある。

生徒は、活動を楽しみ、良い経験とを感じるなど授業に対して肯定的な意見が多かった。いつも通りの活動が進められたことで集中することができた点が挙げられていた。一方で、英語の発音やリスニングなどに対して苦手意識を持っているなど、学習活動を発展させるための基礎力がついていない、と生徒自身が感じていた。

分析のまとめ1(中3国語)

中3国語「パネルディスカッション」の分析

「パネリストは質問を想定し、答えていた。(観察者)」

「準備段階で、用意した資料が多く充実したものが多かった。(観察者)」



言語活動4 情報を分析・評価し、論述する。

言語活動6 互いの考えを伝えあい、自らの考えや集団の考えを

発展させる

の充実につながっていたと考えられる。

「調べることが良いと感じ、パネルディスカッションが良い経験だったと感じている。(生徒)」

論点に対して、事前準備をしたことで、資料を多く用意できた。また、あらかじめ質問を想定し、それに対しての応答を考えることができた。



生徒がこの活動に対し、主体的に調べることの大切さを感じ、パネルディスカッションの良さを感じることに繋がった。

分析のまとめ2(高1英語)

高1英語授業の分析:

「ペアワークの充実(観察者)」、「生徒の活動が多い(観察者)」



アクティブラーニングの手法が取り入れられ、生徒も活動を楽しんでいる。

「シャドウイングが難しい(観察者)」、「発音が苦手、難しい(生徒)」



言語活動3 概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりするために、基礎力をつける場面・時間の設定をする必要がある。

「活動の繰り返し、マンネリ(観察者)」、「授業が楽しい、良い経験(生徒)」

同じ活動を授業に取り入れることが、観察者からはマンネリと感じる一方で、生徒にとっては安心感をもって授業に臨むことにつながっている。

結論

1. アクティブラーニングの充実を図る方策

(1) パネルディスカッションの方法は学習の活性化に有効である

① ディスカッションのテーマの明確化

② 資料の充実が有効化の鍵となる

③ 相手の質問を想定した準備

(2) ペアワークの方法は学習の深化に有効である

① 特に英語のような語学学習では有効性が高い

② グループによる協同学習を導入することが重要である

結論

2. 言語活動の充実を図る方策

(1) 現行学習指導要領の方針として、言語活動の充実が求められている

① 国語では、言語活動4 情報を分析し、論述する活動をするための準備時間の設定が有効である

② 言語活動6 互いの考えを伝えあい、自らの考えや集団の考えを発展させる活動として、テーマを設定し、あらかじめ相手からの質問を想定し、応答を考えるとといった活動は有効である

③ 英語の4技能の習得において、ペアワークや英問英答のような活動をくりかえることは、母語ではない言語を習得する際の、発音や会話をする事への苦手意識や抵抗感をオミットすることができる

④ そのためにアクティブラーニングは言語活動の充実を図る有効な方策である

(2) アクティブラーニングの指導力向上を図るための、中学・高等学校における授業研究会は教師の力量を高めるうえで有効である